

新型コロナウイルス感染症予防による
町民の暮らしに関するアンケート調査結果報告書

令和2年11月

嵐山町まちづくり整備課

目 次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査対象及び場所	1
(4) 回答方法	1
(5) 回答件数	1
参考資料(アンケート用紙)	2
2. 調査結果	3
2-1 回答者属性	3
(1) 地域	3
(2) 性別	3
(2) 年代	3
(4) 家族構成	4
(5) 子育てや介護が必要な方の有無	4
2-2 不安・困りごと(自粛期間・現在・将来)	5
(1) 全体	5
(2) 地域別	5
(3) 子育て世代(未就学児・小学生・中学生のいる世帯)	7
(4) 高齢者世代(60歳代以上)	7
2-3 生活環境の変化(自由意見)	8
3. 考察	10
4. まとめ(都市計画の観点)	14

1. 調査概要

(1) 調査目的

第2次嵐山町都市計画マスタープランの策定にあたり、新型コロナウイルス感染症により、暮らしへの影響や不安・困りごとを把握するため、アンケート調査を実施したものの。

(2) 調査期間

令和2年10月12日(月)～10月25日(日) 14日間

(3) 調査対象及び場所

- 地域懇談会(9月26日開催)
- パネル展示(9施設)
武蔵嵐山駅、嵐山町役場、ふれあい交流センター、北部交流センター
B&G海洋センター、図書館、やすらぎ、嵐山町社会福祉協議会
ベイシアフードセンター嵐山店
- ポスター掲示(2施設)
ヤオコー嵐山バイパス店、カインズ嵐山店
- 菅谷小学校・志賀小学校・七郷小学校の児童全家庭(配布数:562件)
- 嵐山町公式ホームページ

(4) 回答方法

アンケート用紙、電子申請

(5) 回答件数

全回収数：511件

※ 地域懇談会 24件、パネル展示 61件、電子申請 6件、小学校 420件

※ 小学校：配布数 562件 回収数 420件 回収率 74.7%

参考資料(アンケート用紙)

新型コロナウイルス感染症予防による 町民の“暮らし、に関するアンケート調査

町民の生活環境を維持するための“将来ビジョンの方針”を示す都市計画マスタープランの策定しております。策定にあたり、新型コロナウイルス感染症によって、暮らしへの影響や不安・困りごとを把握するため、緊急アンケート調査を実施させていただきます。ご協力お願いいたします。

質問1. あなたご自身についてお伺いします。

住んでいるところ： 町内(行政区) 町外 例) 菅谷1区又は菅谷	性別： 男 女
年齢： 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代 80歳以上	
家族構成： 単身世帯 夫婦のみ 親子2世代(子と同居) 親子2世代(親と同居) 3世代 その他	
子育てや介護が必要な方の有無(該当する全てに○印)	
<input type="checkbox"/> いない <input type="checkbox"/> 未就学児 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 学生(大学生・専門学生等) <input type="checkbox"/> 障がい者 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> その他	

質問2. 3つの時期ごとに「不安・困ったこと」を感じたものの欄に○印をしてください。

項目	自粛期間中(4.5月)の不安・困りごと	現在(10月)の不安・困りごと	将来(半年後)予想される不安・困りごと
例) 働き方の変化による負担	○		○
収入の減少			
支出の増加			
失業・休業(無給)			
過重労働			
働き口がない			
働き方の変化による負担			
自分自身・家族の健康悪化(身体面・精神面)			
自分自身・家族の学習機会の確保、学力低下			
子どもの預け先の確保			
子どもの遊び場の確保			
家族の介護の負担増			
運動・スポーツの機会の減少			
交流機会の減少			
外出時の制限			
その他 ※上記項目以外にあれば具体的に記入			

質問3. 新型コロナウイルス感染症予防による生活環境の変化がありましたら、お書きください。

例) テレワークで家族と過ごす時間が多くなった。休日に近くの公園で遊ぶようになった。 など

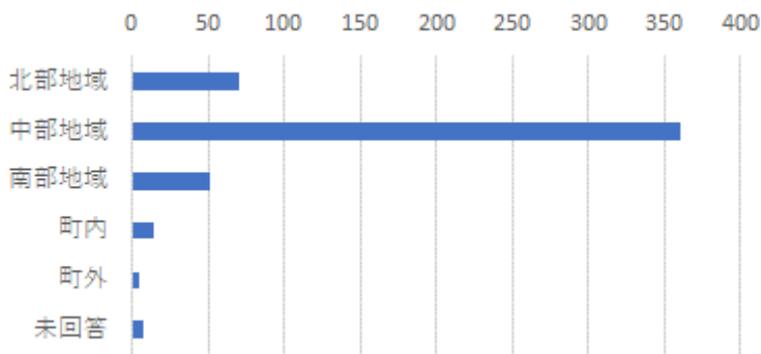
※ 枠が不足する場合は、裏面にご記入ください。 以上で終了となります。ご協力ありがとうございました。

2. 調査結果

2-1 回答者属性

(1) 地域

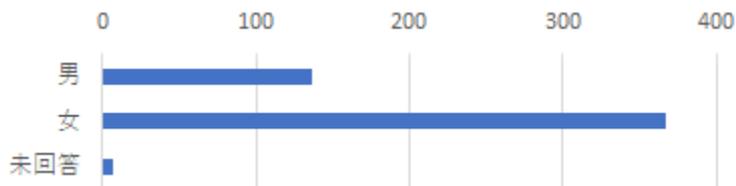
北部地域	71	13.9%
中部地域	361	70.6%
南部地域	52	10.2%
町内	15	2.9%
町外	5	1.0%
未回答	7	1.4%



※ 北部地域：古里、吉田、越畑、勝田、廣野、杉山、太郎丸
 中部地域：菅谷、川島、志賀、むさし台、平澤、千手堂2区
 南部地域：遠山、千手堂1区、鎌形、大蔵、根岸、將軍澤

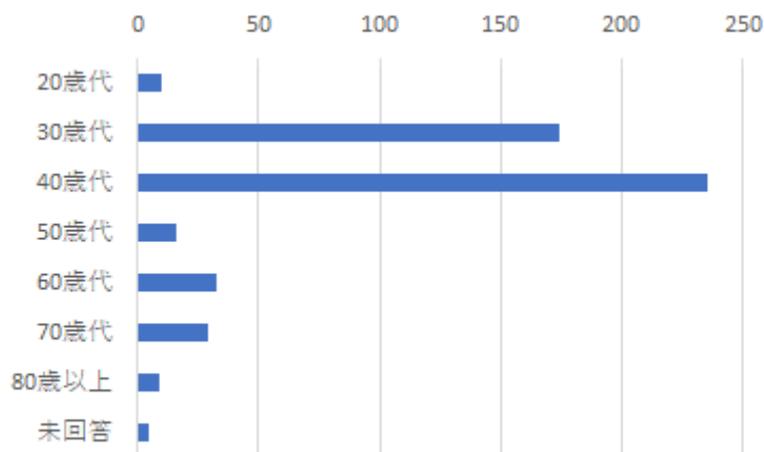
(2) 性別

男性	137	26.8%
女性	367	71.8%
未回答	7	1.4%



(2) 年代

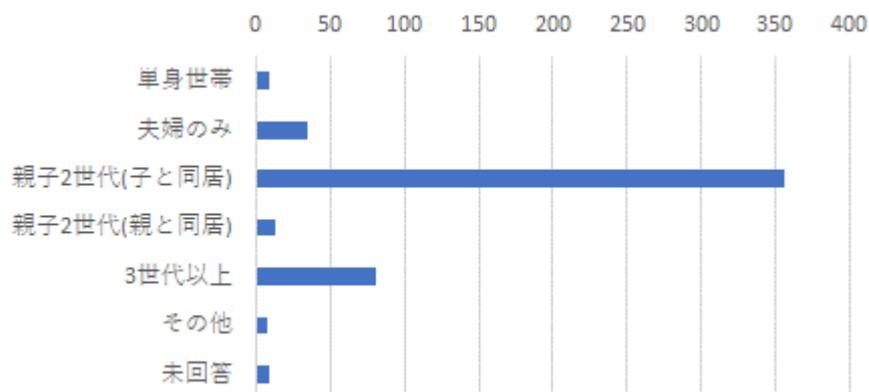
20歳代	10	2.0%
30歳代	174	34.1%
40歳代	235	46.0%
50歳代	16	3.1%
60歳代	33	6.5%
70歳代	29	5.7%
80歳以上	9	1.8%
未回答	5	1.0%



地域	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	60歳代未満割合	60歳代以上割合
北部地域	2	19	32	2	12	2	1	77.5%	21.1%
中部地域	7	134	176	9	11	18	5	90.3%	9.4%
南部地域	1	15	21	1	8	2	3	73.1%	25.0%

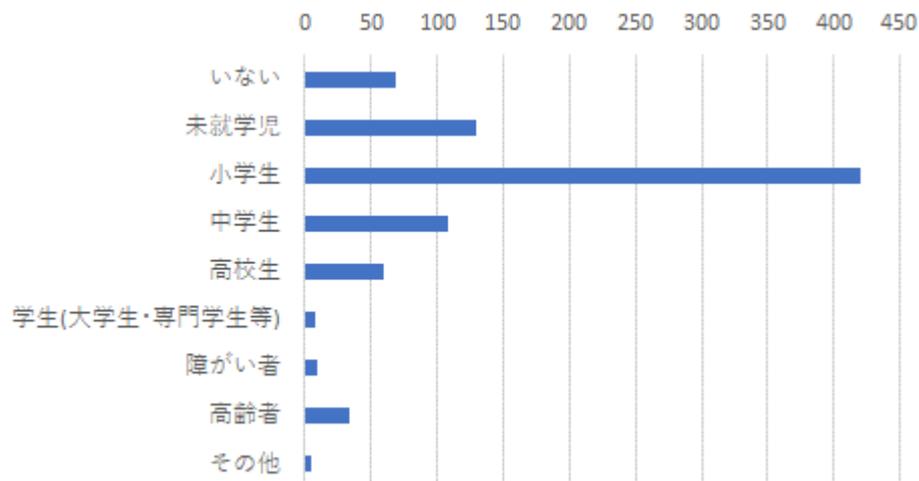
(4) 家族構成

単身世帯	9	1.8%
夫婦のみ	35	6.8%
親子2世代(子と同居)	356	69.7%
親子2世代(親と同居)	13	2.5%
3世代以上	81	15.9%
その他	8	1.6%
未回答	9	1.8%



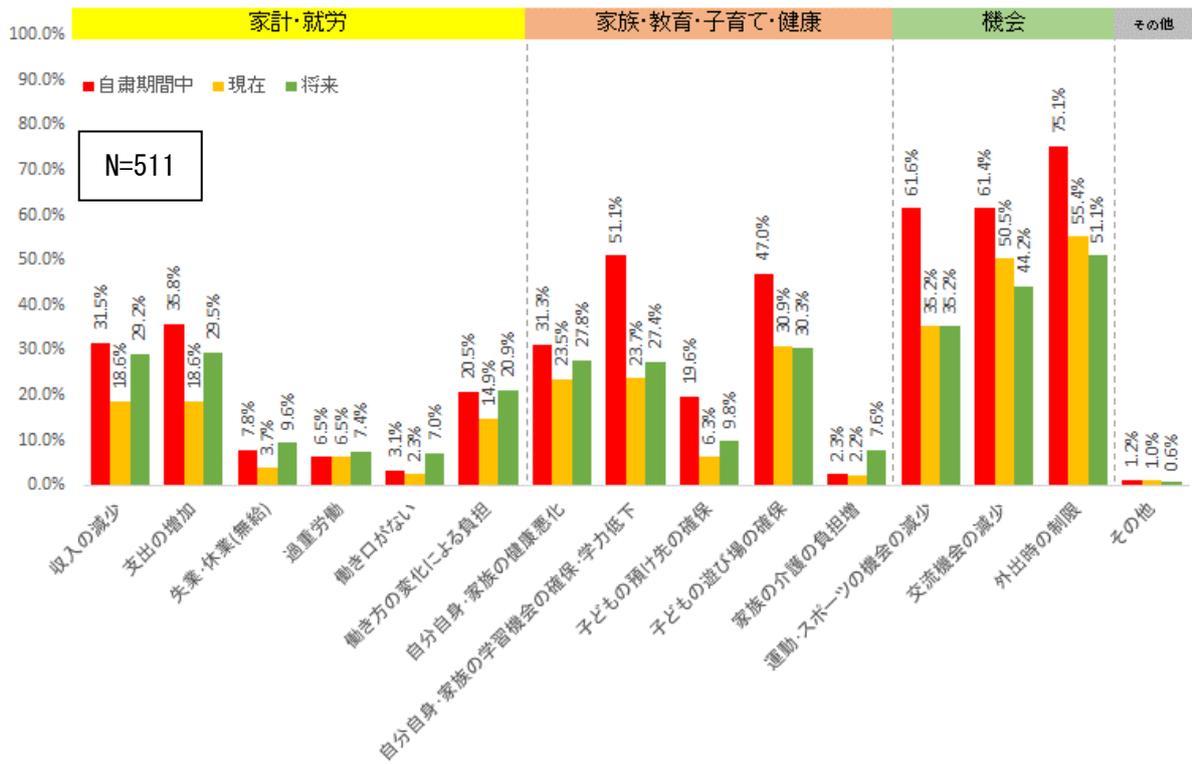
(5) 子育てや介護が必要な方の有無

いない	69	13.5%
未就学児	130	25.4%
小学生	421	82.4%
中学生	108	21.1%
高校生	60	11.7%
学生(大学生・専門学生等)	8	1.6%
障がい者	9	1.8%
高齢者	34	6.7%
その他	5	1.0%



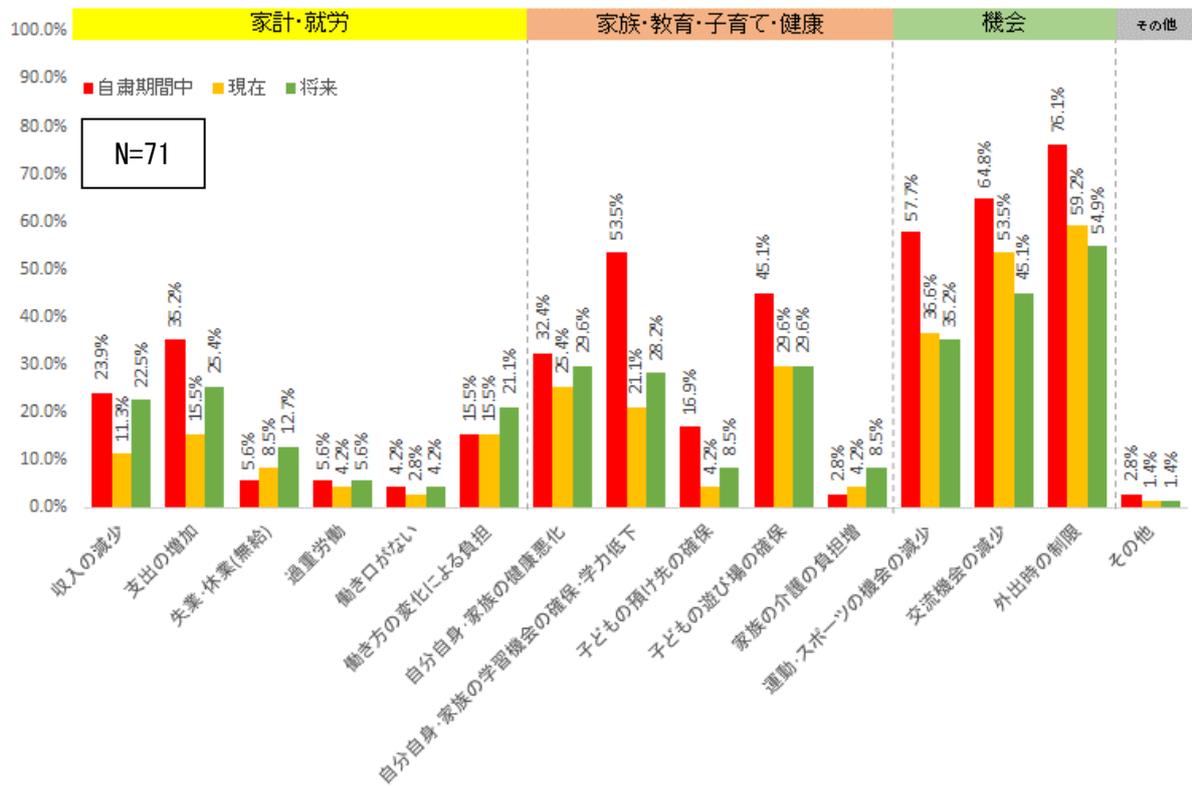
2-2 不安・困りごと(自肅期間・現在・将来)

(1) 全体

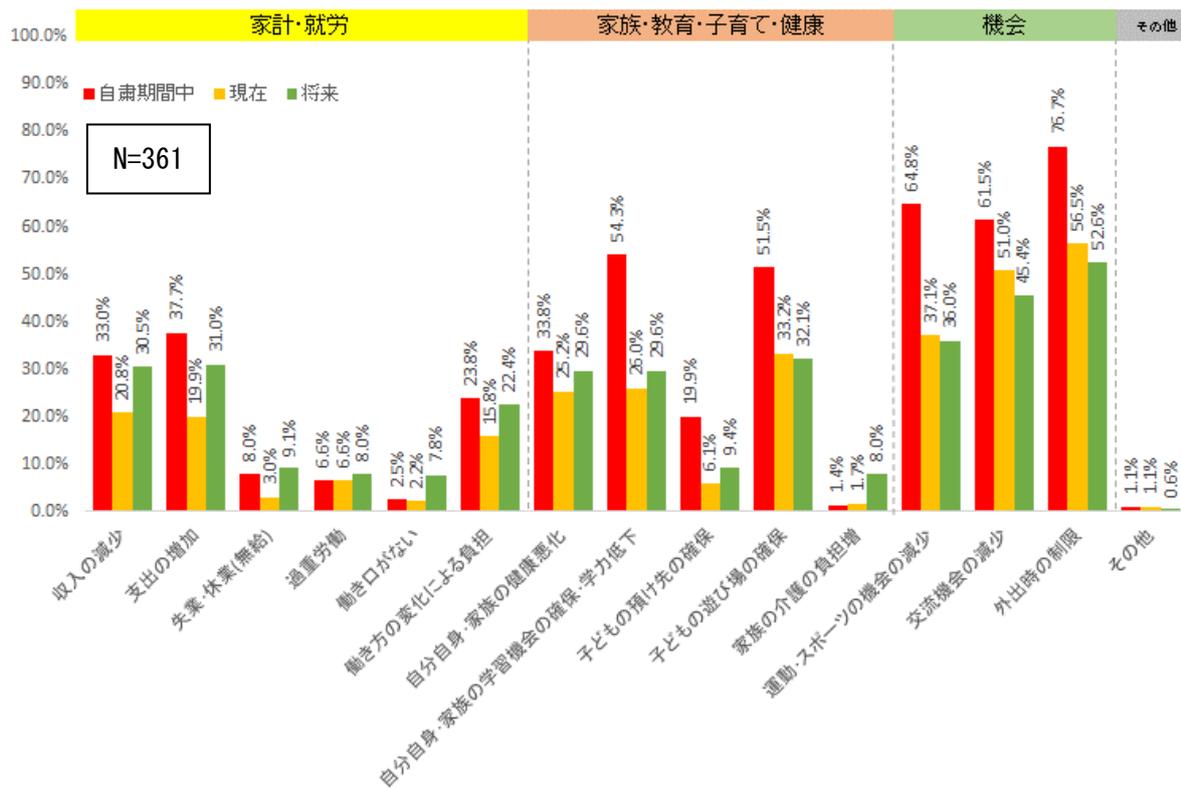


(2) 地域別

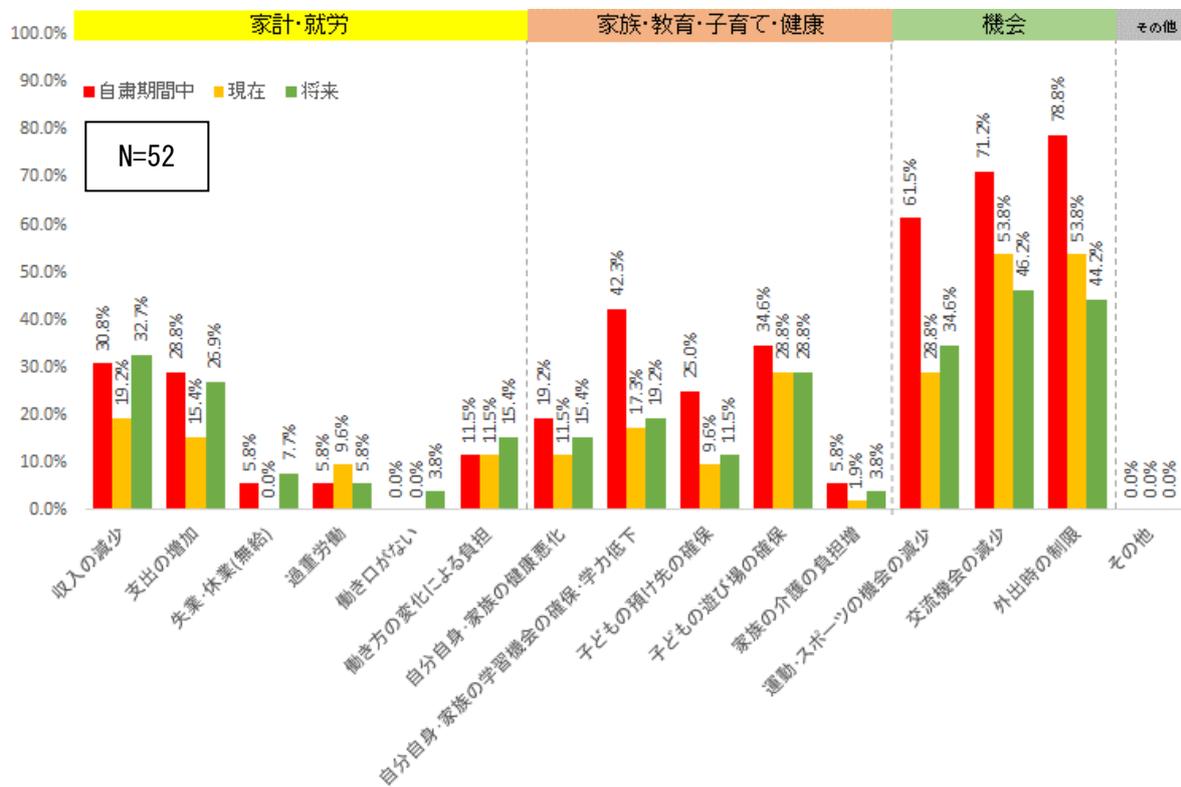
○ 北部地域



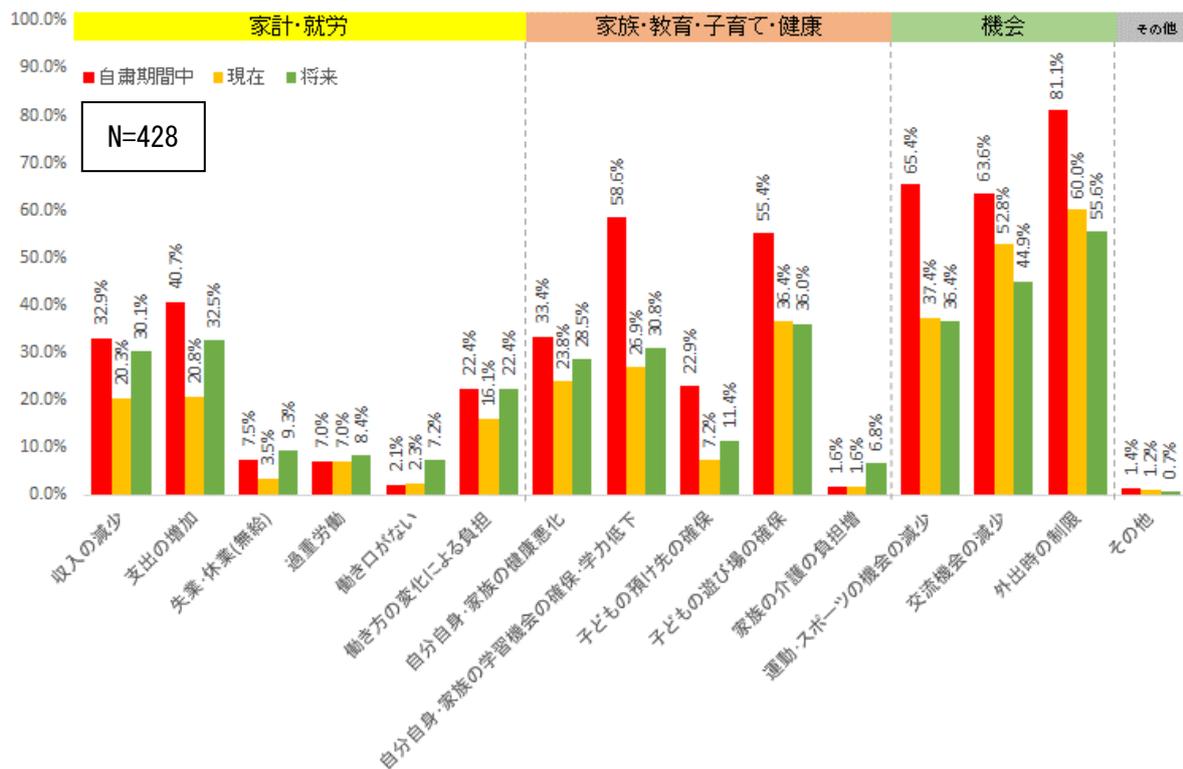
○ 中部地域



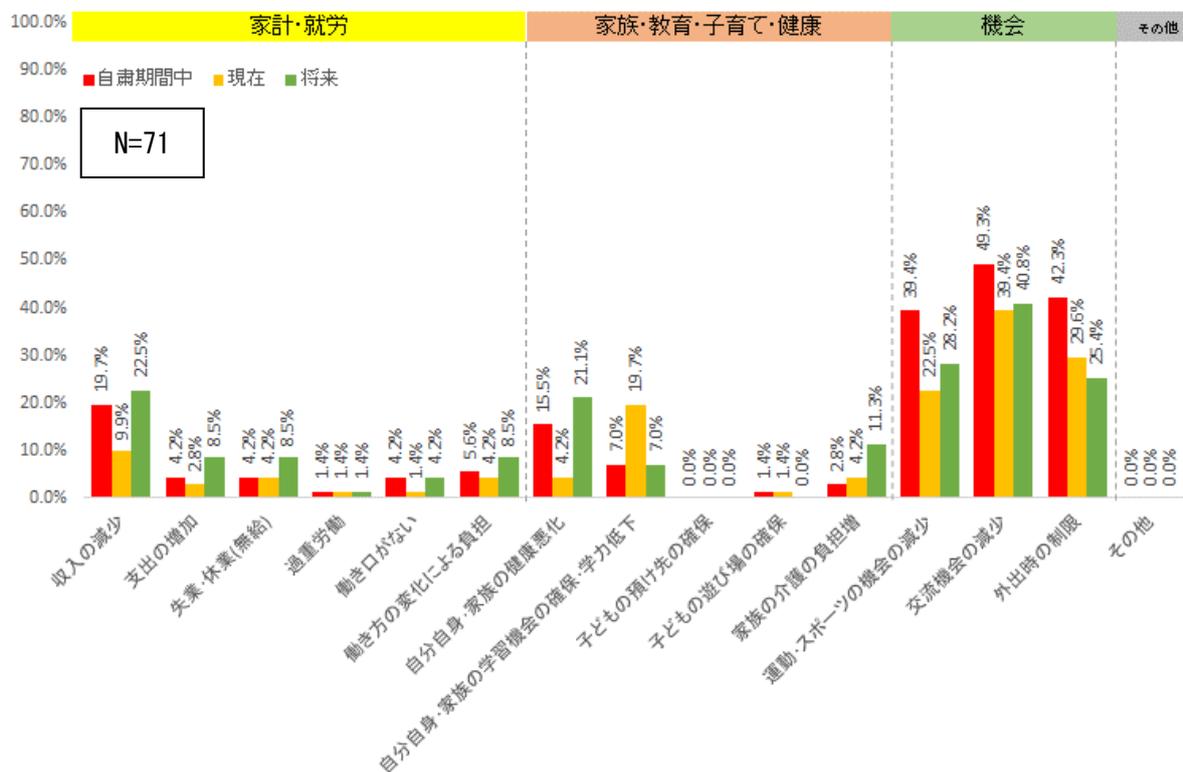
○ 南部地域



(3) 子育て世代(未就学児・小学生・中学生のいる世帯)



(4) 高齢者世代(60歳代以上)



2-3 生活環境の変化(自由意見)

※ 主な意見を原文のまま記載しています。

〔家計・就労〕

- ① 学校休校期間中、家族全員が自宅で三食とるので、食費がかかるようになったのと、その準備にかかる時間が増えたこと。(中部地域 40 歳代女性) [「食費や家事負担の増加」の意見多数]
- ② テレワークのできない職種のため感染が不安。職場からの通達で遊んだり、自由がなく子供がかわいそう。(北部地域 30 歳代女性)
- ③ 医療従事者であり、明らかに仕事が負担となっている。コロナ疑いの患者に接することが多くなり感染しないかが不安。(中部地域 30 歳代女性)
- ④ 両親共に医療福祉に関わっている為、子どもにかなり我慢をさせていると思います。(中部地域 30 歳代女性)
- ⑤ 高齢者施設で働く家族がいるため、やりすぎとも思えるほどコロナ対策を取っていると思う。自分たちのその先(施設の利用者さん)を考えないといけないのは当たり前だけれど、自分の子ども達に我慢させている事も多くて申し訳ないな…とやりきれない気持ちにもなる。(中部地域 30 歳代女性)
- ⑥ テレワークで家族と過ごす時間が増えた。家族がテレワークのため、食事の用意が増えた。家族がテレワークのため子供達の帰宅後も静かにするなど気を使わなければならない、少し不便を感じる。(中部地域 30 歳代女性)
- ⑦ 主人に在宅の時間が増えたため、家事を積極的に手伝ってくれて、子供と遊んでくれる。(中部地域 40 歳代女性)
- ⑧ テレワークで夫が家にいるため、育児が楽になった。室内遊び場に行けなくなった。(中部地域 30 歳代女性)
- ⑨ 外出をする機会が週末だけだったので、色々な所へ遠出するのではなく、近所のスーパーを利用することが増えた。(中部地域 30 歳代女性)
- ⑩ 外出を控えるようになったのでオンラインショッピングが増えた。私も子供も友人と会う機会が減ったのでストレスを感じています。3, 4, 5 月は家族の時間が増えた。子供はオンラインゲームを友人とする時間が増えた。会えなくてもつながれる環境があって良かった。(南部地域 30 歳代女性)
- ⑪ 子供を連れての買物が少し行きづらくなり、宅配などが増えました。(中部地域 30 歳代女性)

〔家族・教育・子育て・健康〕

- ① 土曜授業の増加で子供も親も疲れが取れない。夜ぐっすり寝れなくなった。ストレス増加。(北部地域 40 歳代男性) [「生活環境の変化によるストレスの増加」の意見多数]
- ② 自宅にある物を使って自分で工夫して遊ぶことができるようになった。作品作りが好きになった。テレビを見る時間が増えてしまった。(中部地域 30 歳代女性)

- ③ 仕事を2分の1にして、家で子供の勉強を見なくてはいけなくなった。(中部地域 30歳代女性)
- ④ 嵐山の公園はせまく、管理が行き届いていないので、車で近くの市町村の広くてきれいな公園に遊びに行くようになった。(中部地域 40歳代女性)
- ⑤ 町内で出掛けられる公園など施設が少ないのでつまらない。(中部地域 40歳代女性)
- ⑥ 休校になり、子供と体を動かしたくても、嵐山町には公園がなさすぎる。なので、親子で体重が増加した。(中部地域 40歳代女性)
- ⑦ 家で過ごす時間が多くなり、ゲームをする時間がどうしても多くなってしまった。近くの公園も人が多く場所が限られてしまう。食費がすごくかかる。思うように外で遊べないから、子どものストレスがたまりケンカが多くなった。(南部地域 30歳代女性)
- ⑧ 休日に外出(遠出)せずに家族で近くの公園や家の前で遊ぶようになった。(中部地域 30歳代女性)
- ⑨ 外食は避けて、パンなどを買って公園で食べるが多くなった。(中部地域 20歳代女性)
- ⑩ 外出することが減った分、近場のいい所を多く知るようになった。近くで遊ばせることが多くなった。(中部地域 30歳代女性)

〔機会〕

- ① 以前は休日に家族で出かけることが多かったですが、家にいる時間が増えました。(北部地域 40歳代女性) [「外出の機会の減少、自宅にいる時間の増加」の意見多数]
- ② 行事の減少によって、保護者同士や先生との関わりが減った。遊び場の減少によって、運動の機会が減り、ストレス発散ができていない時がある。(中部地域 30歳代男性) [「運動や交流の機会の減少」の意見多数]
- ③ 嵐山町内の環境に改めて気づかされた。夏には秘境を見つけ、川遊びをたくさんしたり、山のぼりをした。町内のお店の良さに気づき、店主の方々とも顔見知りになれた。(中部地域 30歳代男性)
- ④ 庭でバーベキューするようになった。(中部地域 40歳代男性)
- ⑤ 子どもと一緒に料理をしたり、手芸をしたりする機会が増えた。(中部地域 40歳代女性)
- ⑥ 家にこもることが増えた。友達と遊ぶ機会が減った。(中部地域 30歳代女性)
- ⑦ 旅行や都内への往来がなくなった。友人との会合がなくなった。人生のハリがなくなった。(中部地域 60歳代男性)
- ⑧ 近所でさえあいさつなどが少なくなり、益々人間関係が希薄になっている。別れて住む家族と会う機会も減り、連絡の回数も以前より減っている。(中部地域 60歳代男性)

3. 考察

〔家計・就労〕

- ① 全体・各地域・各世代の「家計・就労」について、自粛期間中から現在までの割合が低くなったが、将来の割合は高くなる傾向があった。「家計・就労」の各項目は、生活に直接的に関係する項目のため、将来への不安・困りごとの割合が高いと考えられる。
- ② 就労に関係する「失業・休業(無給)」「過重労働」「働き口がない」について、他項目と比べ割合が低い。自由意見から雇用形態や業種による影響が大きいと考えられる。
- ③ 北部地域の「失業・休業(無給)」について、自粛期間中(5.6%)・現在(8.5%)・将来(12.7%)と割合が2.9ポイント、4.2ポイント高くなった。
- ④ 南部地域の「過重労働」について、自粛期間中(5.8%)から現在(9.5%)までは3.7ポイント高くなったが、将来(5.8%)の割合は3.7ポイント低くなり、自粛期間中と同じ割合となった。
- ⑤ 全体・北部地域・中部地域・子育て世代においては、「家計・就労」の中で自粛期間中の「支出の増加」が最も割合が高く、続いて「収入の減少」「働き方による負担」となった。自由意見から、外出機会等の減少によりレジャー等の外出は自粛したが、在宅時間の増加に伴う支出の増加と考えられる。
- ⑥ 高齢者世代においては、自粛期間中・現在・将来ともに「収入の減少」が最も割合が高く、続いて「働き方による負担」「支出の増加」となった。
- ⑦ 南部地域においては、自粛期間中・現在・将来ともに「収入の減少」が最も割合が高く、続いて「支出の増加」「働き方による負担」となった。南部地域の回答者の年代は高齢者世代の割合が高く、60歳代未満の割合が低いことの影響も考えられる。
- ⑧ 全体・北部地域・南部地域・各世代の「働き方の変化による負担」について、自粛期間中の割合より将来の割合が高い。自由意見から、テレワーク等による在宅勤務等により、様々な生活環境に影響したと考えられる。

〔家族・教育・子育て・健康〕

- ① 全体・各地域・各世代の「家族・教育・子育て・健康」について、自粛期間中から現在まで割合が低くなったものの、将来の割合は高くなる傾向があった。「家族・教育・子育て・健康」の各項目は、「家計・就労」と同様、生活に直接的に関係する項目のため、将来への不安・困りごとの割合が高いと考えられる。
- ② 全体・各地域・各世代の自粛期間中の「運動・スポーツの機会の減少」の割合が高いことに伴い、自粛期間中の「自分自身・家族の健康悪化」「子どもの遊び場の確保」の割合も高いと考えられる。

- ③ 現在の「自分自身・家族の健康悪化」について、地域別では北部地域(25.4%)・中部地域(25.2%)より南部地域(11.5%)の割合が低い。南部地域の回答者の年代は高齢者世代の割合が高く、60歳代未満の割合が低いことの影響も考えられる。
- ④ 子育て世代の「自分自身・家族の学習の機会の確保・学力低下」について、自粛期間中(58.6%)が最も割合が高いが、現在(26.9%)・将来(30.8%)は割合が低くなった。小学校回答数(420件)が全回答数(511件)の82.2%であるため、自粛期間中は学校の休校等によるものと考えられ、学校の再開に伴い、現在・将来の割合が低くなったものと考えられる。ただし、現在(26.9%)から将来(30.8%)は3.9ポイント高くなっている。
- ⑤ 高齢者世代の「自分自身・家族の学習の機会の確保・学力低下」について、全体・各地域・子育て世代とは異なり、自粛期間中(7.0%)から現在(19.7%)までの割合が12.7ポイント高くなり、将来(7.0%)の割合が12.7ポイント低くなった。
- ⑥ 子育て世代の「子どもの預け先の確保」について、学校が休校等であった自粛期間中(22.9%)の割合は、他項目と比べて割合が高くない。また、地域別では北部地域(16.9%)、中部地域(19.9%)、南部地域(25.0%)の差は見られない。自由意見から親が仕事を休むことや在宅勤務であったこと、祖父母に面倒を見てもらう等の対応を行ったと考えられる。
- ⑦ 全体・地域別・子育て世代の「子どもの遊び場の確保」について、自粛期間中の割合が最も高く、現在から将来までの割合は変わらない。自粛期間中の各地域では北部地域(45.1%)・南部地域(34.6%)より中部地域(51.5%)の割合が高い。現在・将来の割合(約30.0%)は各地域とも変わらない。
- ⑧ 「子どもの遊び場の確保」について、主に公園の意見が多かった。自由意見から「近くの公園で遊んだ」という意見の一方「公園が少ない。狭すぎる。管理が行き届いていない。」という意見があった。外出制限の中で公園の活用への意識が高まったと考えられる。

【機会】

- ① 全体・各地域・各世代の「機会」について、自粛期間中・現在・将来と割合が低くなる傾向があった。全国的な外出制限等の緩和によるものと考えられる。
- ② 全体・各地域・各世代の自粛期間中の「機会」は、他項目と比べ高い割合となっている。
- ③ 高齢者世代の「機会」の割合について、全体・各地域・子育て世代の「機会」の割合よりも低い。
- ④ 全体・各地域・子育て世代において、自粛期間中の「外出時の制限」の割合(70%以上)が最も高い。特に、子育て世代の割合は81.1%となっている。高齢者においては、「交流機会の減少」の割合(49.3%)が最も高い。現在・将来の最も高い割合についても同じである。

- ⑤ 自粛期間中の各地域においては、「外出時の制限」に続く2番目以降の項目は、北部地域・南部地域では「交流機会の減少」「運動・スポーツの機会の減少」に対し、中部地域では「運動・スポーツの機会の減少」「交流機会の減少」の順となっている。
- ⑥ 自粛期間中の各世代においては、子育て世代では「外出時の制限」「運動・スポーツの機会の減少」「交流機会の減少」に対し、高齢者世代では「交流機会の減少」「外出時の制限」「運動・スポーツの機会の減少」の順となっている。子育て世代と高齢者世代では、不安・困りごとが異なると考えられる。
- ⑦ 南部地域の「運動・スポーツの機会の減少」、高齢者世代の「運動・スポーツの機会の減少」「交流機会の減少」については、自粛期間中から現在までの割合は低くなったが、将来の割合は高くなった。

〔自粛期間中の割合より将来(2021年(令和3年)4月)の割合が高い項目〕

種別	項目	自粛期間中	将来	増加ポイント
全体	「働き方の変化による負担」	20.5%	20.9%	0.4ポイント
北部地域	「失業・休業(無給)」	5.6%	12.7%	0.4ポイント
	「働き方の変化による負担」	15.5%	21.1%	5.6ポイント
	「家族の介護の負担増」	2.8%	8.5%	5.7ポイント
中部地域	なし			
南部地域	「収入の減少」	30.8%	32.7%	1.9ポイント
	「働き方の変化による負担」	11.5%	15.4%	3.9ポイント
子育て世代	なし			
高齢者世代	「収入の減少」	19.7%	22.5%	2.8ポイント
	「支出の増加」	4.2%	8.5%	4.3ポイント
	「失業・休業(無給)」	4.2%	8.5%	4.3ポイント
	「働き方の変化による負担」	5.6%	8.5%	2.9ポイント
	「自分自身・家族の健康悪化」	15.5%	21.1%	5.6ポイント
	「家族の介護の負担増」	2.8%	11.3%	8.5ポイント

「収入の減少」	2件
「支出の増加」	1件
「失業・休業(無給)」	2件
「働き方の変化による負担」	4件
「自分自身・家族の健康悪化」	1件
「家族の介護の負担増」	2件

合計 12件

[将来(2021年(令和3年)4月)の割合30.0%以上の項目]

種別	項目	将来
全体	「子供の遊び場の確保」	30.3%
	「運動・スポーツの機会の減少」	35.2%
	「交流機会の減少」	44.2%
	「外出時の制限」	51.1%
北部地域	「運動・スポーツの機会の減少」	35.2%
	「交流機会の減少」	45.1%
	「外出時の制限」	54.9%
中部地域	「収入の減少」	30.5%
	「支出の増加」	31.0%
	「子供の遊び場の確保」	32.1%
	「運動・スポーツの機会の減少」	36.0%
	「交流機会の減少」	45.4%
	「外出時の制限」	52.6%
南部地域	「収入の減少」	32.7%
	「運動・スポーツの機会の減少」	34.6%
	「交流機会の減少」	46.2%
	「外出時の制限」	44.2%
子育て世代	「収入の減少」	30.1%
	「支出の増加」	32.5%
	「自分自身・家族の学習機会の確保・学力低下」	30.8%
	「子供の遊び場の確保」	36.0%
	「運動・スポーツの機会の減少」	36.4%
	「交流機会の減少」	44.9%
	「外出時の制限」	55.6%
高齢者世代	「交流機会の減少」	40.8%

「収入の減少」	3件
「支出の増加」	2件
「自分自身・家族の学習機会の確保・学力低下」	1件
「子供の遊び場の確保」	3件
「運動・スポーツの機会の減少」	5件
「交流機会の減少」	6件
「外出時の制限」	5件

合計 25件

4. まとめ(都市計画の観点)

- 外出制限や交流機会の減少に伴い、ストレスと日々の満足度に影響を生じさせたようである。人との交流をもたらす空間づくりの必要性が考えられる。
- コロナ禍による外出制限に伴い、テレワーク等の就労形態の変化により在宅時間が増え、家事負担や家族とのコミュニケーション等の様々な生活環境の変化を生じさせたようである。仕事と生活のバランスに合わせた居住環境の整備が考えられる。
- コロナ禍の感染予防対策により、テレワークやオンラインショッピング等が増加し、ICT の活用によるヒトやモノとつながれることを経験したようである。テレワーク等での在宅の住宅環境やオンラインショッピング等による流通に対する需要を踏まえた土地利用や既存建築物の活用を図ることが考えられる。
- 雇用形態や業種による影響されるようだが、正社員への影響は少ないと考えられる。
- コロナ禍の感染予防対策により、町内にある自然を活かした遊びや飲食店・店舗等、身近な良い発見があったようである。町外の人々だけではなく、町民が知り・訪れ・楽しめるようにすることで、町内の観光資源や飲食店・店舗等を活性化することが考えられる。
- 運動・スポーツの機会の減少により、身体・精神面の健康悪化への不安が生じたようである。公園・河川敷等の身近な場所での遊びや散歩等、緑豊かな公共空間が重要視されている。